

5-アミノサリチル酸製剤間の変更による潰瘍性大腸炎の治療効果に関する 研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年1月8日～2021年3月31日

〔研究課題〕 5-アミノサリチル酸製剤間の switch による潰瘍性大腸炎の治療効果について

〔研究目的〕 5-アミノサリチル酸製剤間の変更による潰瘍性大腸炎の治療効果を解析します。

〔研究意義〕

潰瘍性大腸炎（以下 UC）は慢性の炎症性腸疾患で、長期にわたる加療が必要です。5-アミノサリチル酸（以下 5-ASA）は活動期の炎症を抑え、更にもその状態を維持する治療薬であり、免疫抑制作用がないことなどから UC の第一選択薬として広く使用されています。現在日本では 4 種類の 5-ASA 製剤が販売されていますが、各々の薬剤で炎症部位に到達するメカニズムに違いがあるため、病態に合わせた薬剤を選択することで有効性が高まる可能性があります。本研究は、5-ASA 製剤間で薬を変更することにより治療効果にどのような変化があるかを明らかにすることを目的としています。

〔対象・研究方法〕

2009年4月1日から2018年3月31日までに当科で診療を行った UC 患者様のうち、5-ASA 製剤の変更を行った方を対象とします。体温、便回数、血便の有無、腹痛の有無、体温、腸管外合併症の有無、赤沈値、ヘモグロビン値、大腸内視鏡の粘膜所見を調査し、臨床的活動性、内視鏡的活動性がどのように変化したかを判定し、解析します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部 内科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

全ての情報は匿名化したうえで使用します。研究結果は学会や論文として公表されることがありますが、その際患者様の名前や病状などの個人情報は公表されることはなく、プライバシーは保護されます。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：内科学講座 講師 阿部 浩一郎

研究分担者：内科学講座 教授 山本 貴嗣、内科学講座 講師 小田島 慎也

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL：03-3964-1211(代表)〔内線 7055〕abe@med.teikyo-u.ac.jp